

■効果の見える治水事業

みやごうち 宮川内ダム堰堤管理事業

徳島県県土整備部 東部県土整備局
局長 久住 武司



宮川内ダムは、昭和39年の管理開始から51年目を迎え、半世紀以上にわたって洪水調節はもとより、農業用水や河川維持用水の安定供給といった治水・利水両面での大きな役割を果たして参りました。

こうした機能の向上を図るため、これまで、放流能力を増大させる底部放流管の新設や洪水吐きゲート巻き上げ機の改築など大規模な施設改良に加えて、日頃からの点検に基づいた堰堤管理事業（修繕工事）を実施しており、平成26年度には「長寿命化計画」を策定し、将来に向けての戦略的な維持管理に努めているところであります。

このほか、今まで積み重ねてきた地域や住民などとの関わりを重視し、引き続き、誰にも「親しまれるダム」として、地域と共存するダムを目指して参ります。

宮川内ダムの概要

- 目的 洪水調節、特定かんがい、流水の正常な機能維持
- 河川名 吉野川水系宮川内谷川
- 諸元 型式：重力式コンクリートダム
堤高：36.0m、堤頂長：130.0m
総貯水量：1,350千 m^3 、
集水面積：23.14 km^2
ゲート：2段式鋼製ローラーゲート

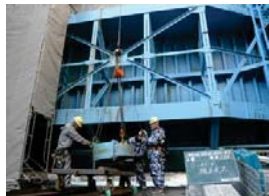


洪水時に放流する宮川内ダム

堰堤管理事業

ダムの適正な維持管理を図るため、堰堤管理事業により、ダム設備の保守点検業務をはじめ、貯水地の水質及び堆砂状況調査等を毎年定期的実施しています。

現在、洪水吐きゲートについて、定期点検により手当が必要と判断したローラー部分の修繕工事を実施しています。



ゲートの修繕工事



ダム湖でのフィッシング状況

親しまれるダムへ

ダム湖周辺は、地元ボランティアによる保全活動が行われ、春は桜や新緑、秋は紅葉、四季折々の美しい風景を生み出しており、イベント、散策、釣りなどに利用され、憩いやレクリエーションの場として親しまれています。

また、ダム見学会や、小学生等の環境学習の場として活用されている他、最近では、ダムカードが好評で、日本各地から訪問していただく方々に対する地元の観光PRも心がけています。

今後とも、適正な維持管理による「安全・安心を実感できるダム」はもとより、地元内外を問わず「親しまれるダム」を目指していきたく考えています。



小学生を招いたダム見学会



ボートによる湖底清掃

「人の花咲くやすらぎ空間・阿波市」

阿波市長 野崎 國勝



阿波市は、平成17年4月1日に阿波郡阿波町・市場町、板野郡土成町・吉野町の4町が郡をまたいで合併し誕生した、総面積190.97 km^2 の県内でも平野部の多い市です。

北部には阿讃山脈が連なり、緑豊かな山々を有し、これらの山々を水源として、宮川内谷川、日開谷川、大久保谷川及び伊沢谷川が南に縦貫し、それぞれに南斜面の扇状地を形成しています。

宮川内谷川上流には、徳島県で管理を行っている宮川内ダムがあり、昭和39年の完成以来50年余に渡り、下流域の洪水防御の役割を担ってきました。

今後とも、ダムの治水機能が十分に発揮されるよう、適正な維持管理に努めていただきたいと思いますと考えております。

本市でも、近年の異常気象などの対応として、市道中央東西線自歩道整備事業（延長約4500 m ）では、幅3.5 m の自歩道を設け、その下に排水溝を設置しました。阿讃山脈からの雨水を排水溝に取り込み、河川へ流す仕組みであり、吉野川沿いの内水被害を防ぐ、本市の地形を最大限に利用した災害対策です。

また、本市は、合併以来、本庁と3支所で業務を行って参りましたが、市のほぼ中心である市場町切幡字古田の地に新庁舎を建設し、平成27年1月1日から業務を開始しました。

寄せ棟造りの新庁舎は鉄筋コンクリート造り3階建ての免震構造で、近い将来発生が危惧されている南海トラフ巨大地震にも耐えられる構造となっています。

庁舎に隣接された交流防災拠点施設「アエルワ」も免震構造で、最大645人収容の多目的ホールを備えているほか、座席は可動式となっており、災害時に全国から届く支援物資やボランティアらの受け入れ基地にもなり、支援物資を市内各地へ配送する役割も担います。

本市は、平成27年4月に市政施行10年の節目を迎えました。キャッチコピーの「10周年 かがやく阿波市に きらめく未来」に込められた市民の熱い思いを受け止め、「住んで良かった」「これからも住み続けたい」と思える「人の花咲くやすらぎ空間・阿波市」を目指していきたく考えています。



紅葉の映える宮川内ダム



新たに整備した阿波市役所庁舎